



植柳の風

八代市立植柳小学校 校長室便り
平成31年3月18日NO. 131

池の日 ~「植柳の風」最終号~

午前10時過ぎ頃から少しずつ人が集まり始めた。「緊急SOS池の水を全部抜く大作戦」の収録が17日(日)に行われた。幸い、天気は快晴で、多くの人が集まり過ぎることを逆に心配した。前日の打ち合わせ時、ディレクターにSNS等でこの情報が拡散していることを告げると頭を抱えておられた。この日の朝、職員室にいと、午前9時前、町内放送で多くの参加を呼び掛ける放送が聞こえてきてびっくり。前述のディレクターも「いや、あれはやめて…」と困惑されていた。だが、後で放送された会長さんに聞くと、「池の中に入るボランティアの人が少ないので、居ても立ってもおられず放送したんです。」と応えられた。その思いが嬉しかった。



午前10時半には、本校6年生や保護者、地域の方たち、高校生の生物関係者らも大勢集まり、テレビ関係者から取材日程や注意事項の説明があった。さあ、ゲストの登場ということで、ずらりと築山近くに体育館方向を向いて陣取っていると、サッカー元日本代表 前園真聖選手と生物学者の加藤英明先生(静岡大学講師)が現れた。拍手が起ころ中、「誰がSOSのメールを送られたのですか?」と言われたので、「ハイ」と手を挙げ、清明の池はきれいなのだが、白鳥の池は、だいぶヘドロが溜まっていてどうにかならないかと思ったことなどをお話した。その後、清明の池や白鳥の池を実際に3人で見学しながら、裁柳園や旧講堂の歴史、これまで地域から寄せられた植柳小や裁柳園に対する思い等を語った。「すごい歴史のある学校ですね。」と前園選手も感心しておられた。午前11時、吸水ポンプのエンジンを始動。約1時間ほど待つことになる。



午後0時40分ごろ、いよいよ水が減ってきた白鳥の池の中に入り、生き物の捕獲作戦開始。6年生とゲストたちは、一緒にヘドロの中に入り、足を取られながら必死に鯉や銀ブナ、小魚たちを探した。するといはいるは。体長80cm近い大物の鯉(推定20歳以上)や中ぐらいの鯉など18匹もいた。他にも在来種のはぜの仲間などもたくさんいたわけだが、中には外来種で他の小魚を食べつくしてしまうライギョ(タイワンドジョウ科)やアカミミガメ(通称 ミドリガメ)なども発見され、「見つかってよかったですね。これがいると、池の生態系に大きな影響を与えるんです。」と加藤先生に説明いただいた。

午後2時過ぎ、もう一人のゲスト、八代亜紀さんも登場。このころには人だかりができており、運動場に用意した駐車場もほぼ満杯状態。大勢の人が盛大な拍手で迎えた。その後、池のヘドロを除去する作業を開始する。しかし、足がヘドロに獲られてなかなか歩くことができない。苦戦しながらバケツリレーをしていく。午後3時過ぎ、作業終了。獲れた生き物の説明や今回の池の水を抜く撮影の感想等の収録を終え、後片付けにかかった。



前日の準備から当日まで、6年生をはじめ、先生方、保護者、地域の方たちのおかげで無事に終了した撮影。改めてご協力に感謝申し上げたい。これからも植柳小の裁柳園は、子どもたちの環境教育や遊び場所、豊かな情操を育む場として、また地域住民の方たちにとっては憩いの場として親しまれ、大切に保存されていくことだろう。

※ご愛読いただいた「植柳の風」は、今週号をもって終了します。ありがとうございました。